

集団回収実施団体が行っている回収の工夫や特徴

スチール缶の集団回収支援の応募に際して、実施団体からご報告いただいた「回収の工夫や特徴」を紹介します。

実施団体が活動している場所の地域性や地形によっても集団回収の運用形態は大きく異なりますので、どのような工夫や特徴が最適か一概には言えませんが、今後の活動推進のための参考にさせていただければ幸いです。

周知方法について

- ◇ 町内会員全戸に、資源集団回収の啓発と年間回収日の予定表の配布を実施。また、毎月の回収日を回覧板にて通知している。(町内会)
- ◇ 町会員に集団回収について回覧にて周知するとともにごみステーションに掲示して周知を図っている。町会・子ども会の共同事業として行っている。(町内会)
- ◇ 多くの方に参加していただくよう、月2回学校の一斉メールにてご協力をお願いし、周知徹底を図っている。(中学校PTA)
- ◇ SNSを使って会員に周知、協力をお願いしている。(スポーツクラブ)

集積場所・回収拠点について

- ◇ 毎月3名当番を決め、回収時間より早めに行き、分別などの手伝い、業者の回収が終わるまでその場で待機している。(町内会)
- ◇ 回収拠点として資源物の保管庫を建設し、集団回収に取り組んでいる。(町内会)
- ◇ コミュニティセンター玄関横に回収ボックスを常設し、24時間持ち込み可能にしている。(自治会)
- ◇ 再生資源回収倉庫を町内2か所に設置している。(町内会)
- ◇ 悪質な粗大ごみ放置抑制のため収集場所に花壇を設置している。(子ども会)

回収方法や置き場の管理について

- ◇ 自治会の子ども会・老人会・女性部の3団体が交互に回収を実施して、当番の作業負担を減らしている。(町内会)
- ◇ 役員が2人4交代で1か月間ずつ置き場の管理を行っている。(老人会)
- ◇ 作業員を特定せず、「できる人ができる時に自主的に」をコンセプトに活動を行なっている。(ボランティア団体)
- ◇ 地区のコミュニティハウスを排出場所にしているが、車のない人や高齢者宅には会員が収集に行っている。(町内会)
- ◇ 担当エリアを決めて役員が回収して回り、集積所に集めている。その後皆でスチール缶やアルミ缶の分別作業を行っている。(子ども会)

環境学習・普及啓発について

- ◇ 集団回収を子ども主体で実施させて、環境意識の向上に努めている。(子ども会)
- ◇ 実施日を事前に連絡し、生徒・保護者に協力を依頼する。生徒が登校する際 資源物を各自持参し福祉委員の生徒が昇降口付近でそれを回収し、分別する。1回の回収で300個以上缶類を持ってきたクラスを表彰する。(中学校)
- ◇ 各戸訪問し、リサイクルの重要性を啓発している。(老人会)